



号者局
21 頁
行 務

平成 2 年 12 月 20 日
成 木 第 五 出 張 所
平 鈴 玉
TEL. 700-9120

小学校の先生にお聞きした話ですが、子どもたちの世界も時代の進歩に歩調を合わせ遊びがハイテク化されているのだそうです。ファミコンやゲーム電卓など現代科学の最先端をいくソフトを、いとも簡単にクリアーしてしまうのには驚きと共に尊敬の念すら覚える。つまり、遊びも人類とともに進化しているのです。伝統の風あげでさえ、外国から輸入された空気が力学の粋であるゲイラカイトや飛行船型ビニール風などに変わっている今、現代の子どもたちはリッチなので、大変高価な遊び道具モトクロス自転車やローラースケート、スケートボード、一輪車などを持ち、金あまり日本の断面を垣間見るようだ。

自然に親しみ、手造りの玩具を大切にしたい過去を想うのは、大人の郷愁だろうか。

（池田）

恩賜神社の初詣で

周賀 丁巳 高橋 良明

私の家は用賀神社の参道に面しています。大晦日の紅白歌合戦も終り、テレビでは各地の除夜の鐘、初詣で風景の模様の中継され、頃、参道がごわつき始めます。神社の境内では威勢のいいお囃子が始まり、初詣で参拝の人たちを迎えてくれます。数年前前から、参拝者が年々増えて来ています。特にこの一二年は、拜殿から用賀中町通りまで約百五十坪の参道は、参拝の人でぎっしり埋まる程です。私の初詣では、参道が静かになった頃出かけます。

初詣で

瀬田の西の端の小高い所に瀬田玉川神社があります。他の神社と比較して近代的で立派だと思えます。祭神は日本武尊その他の神と聞いています。玉川三丁目

瀬田玉川神社

内田 亜樹
高橋 一年

初詣では大変賑やかで除夜の鐘の鳴る頃から凍つく真夜中にもかかわらず、新年への願いと期待をこめ近隣から大勢の人が参拝に集まります。その列は電話局の方まで続きお宮には奉仕の人達が甘酒おしる、等を参拝者に振舞っています。宮務代の方々も交替で拜殿の守りにあたり、私の祖父もその一人なのです。白

日本人の暮らしの中に織りこまれた、行事料理は、もともと生活の節目に楽しんだ健康のためのごちそうだったそうです。

初詣はあそびの味

周賀 丁巳 高橋 光枝

我家でも毎年、家族連の都合の良い日に、一同に会しておせちを味わいながら和やかな一日を過ごします。母は、昔ながらのかまどで自家製の野菜を一つ一つでいねいに大鍋で煮上げてゆきます。伝統的なおせちとは又違った素朴なごちそうです。口の中にひろがるふくらみ煮上った野菜は、まさに小さくろの味そのものです。

除夜の鐘

真經寺大僧正 内藤 隆敏

除夜の鐘は大晦日の午後十二時頃から元旦にかけて無鐘を撞き百八の煩悩を一つずつ取り除く佛教寺院の行事で、無明に沈む世界から本来の世界に至らしめる所に意義があると言われ、当寺院では檀家役員の協力を得て、昭和四十九年から梵鐘の代りに機械式時報機を使って除夜の鐘を庫裡屋上の拡声機より流している。大晦日の夜十一時四十五分から打ち始め二十秒毎の間隔で終わるのは元旦の午前零時二十分になる。そして初詣での人たちの足音が続く中、新春の光を迎える。



鈴木 武二

ボロ市すんで日が暮れてクリスマスやら大掃除紅白さいて夜が更けて百八煩悩消すと言うカネが鳴ります除夜の鐘暗いうちからゾロゾロとみんな行きます。初詣でだれが決めたか教えたか日頃見向きもせぬ人も神も仏もあるものかなんて言ってる其の人も登る石段 大鳥居くぐる山門に本堂観光気分もちょっぴりと団体さん大まじめ赤線帽子の駅長さんアッ紐かけて大奮闘そんな人混みゆくよりも近い地元いろいろと神社もあれば寺もある二礼三拍手ひびかせて両手あわせて願いごと家内安全 火の用心商売繁昌いのります世界平和も健康もなけた豪快気になって十円玉じゃあダメかしら追加又投げ 変かしら万札いれる人あるとある新聞に出てました今年もご無事を祈りつつサビサ甘酒おかわりし破魔矢かついだ後からは夜明け朝やけ来るでしょうカラスがひと声わらってたはこぼ足どりルンルンとスガスカしいよい気分ヤッパリお参詣うれしいね行く手



初日の出

郷土紹介

慈眼寺

環状八号線と国道三四六号の瀬田交叉点を少し東名インター方向に向い、旧大仙道の路地を左折、しばらく進むと、道路脇に元禄十一年(二六九)と年号が読みとれる庚申塔が建っています。この横のゆるやかな坂道が慈眼寺への参道です。慈眼寺はこの辺りでは一番古い歴史を持つているお寺と言われ、その草創は今から約七〇〇年前、徳治年間鎌倉時代の末期と言つ事になります。開山は法印定吉で、当初は現在の場所より下の方、滝ヶ谷辺りにあった様です。規模も修験者の小堂の様なものだったと思

われます。その後、里人達の信仰を集め、いくつもの伝説を残しながら二〇〇有余年の歳月が流れます。そして天文二年(一五三三)に法印栄音が郷土長崎四郎左衛門の協力を得て現在地に堂宇を移し、喜楽山教令院慈眼寺と呼ばれる様になりました。この本尊は金剛界大日如来です。境内には元禄九年(二六九)の地蔵像や天保五年(一八三四)の弘法大師一千年忌報恩塔等があります。

真言宗智山派に属し、玉川八十八ヶ所巡りの第三十七番札所のお寺です。又、隣接する瀬田玉川神社の境内地は、明治時代を迎えるまで当慈眼寺の寺領地だったとの事です。(飯田)

また、当日、鳥根豊益田市の津田神社中により石見神楽(やまたのおちろ遺治の舞)別名蛇殺しの踊りⅡが奉納されました。(初田)

世田谷百景 用賀観音のお開帳

去る11月18日 無量寺境内の観音堂にて、12年に一度年に行われるお開帳がありました。御尊像は木彫八寸の坐像で十面観音です。当日のみ御像の手より五色の布が御堂の角柱に引き繋がれ、善の綱、縁の綱として世の人々が御尊像に願ひる事ができる唯一の綱と言われています。

また、当日、鳥根豊益田市の津田神社中により石見神楽(やまたのおちろ遺治の舞)別名蛇殺しの踊りⅡが奉納されました。(初田)

あとがき

雪のたよりがちらほらと聞へて来ますが暖かい即走も、残り少なくなつて参りました。

国勢調査で、発行日が一ヶ月遅れとなり、編集会議では、早や、新年の話題が飛び出すこと頻り。

除夜の鐘に誘われ、全国、津々浦々で繰り広げられるイベント、初詣で。

ゆく年を送り、来る年を迎える日本人のこころを、わがまちの中に、探してみました。

さて、あなたは、どの様な思いで年を送り、新たな年に、何を希いますか。

(折原)

初詣で

近くの寺社の
テクテクマップ

